

町の活動拠点施設「津別町多目的活動センター」
完成に伴い、オープンセレモニーが開催されました



4月1日にオープンした『津別町多目的活動センター』



オープンにあたり、代表者16名のテープカットが行われました

新たに町のシンボルとなる津別町多目的活動センターが完成したことを記念し、4月3日、オープンセレモニーが開催され、関係者113名の出席がありました。

津別町多目的活動センターは、津別町第5次総合計画の第1歩として建設された施設で、まちづくりに関する情報センター、町内外を結ぶ交流センター、中心街活性化センター、工房展開支援センター、計画の推進管理機構の5つの役割を担い、「町は舞台、町民が主役」の理念を具現化する中核施設となります。

完成に伴い、佐藤多一町長は「総合計画の1歩をよつやく踏み出すことができました。皆さんのご協力を得ながら、この施設を拠点に町が活性化していくことを期待します」とあいさつ。その後、鹿中順一町議会議長、日下大明道議会議員、武田準一郎才ホーク総合振興局長、石橋雲司津別町商会長より祝辞が述べられ、池田彰北見信用金庫理事長、清水靖則清水建設㈱代表取締役、鈴木敏司㈱アトリエアク代表取締役から寄付の贈呈がありました。

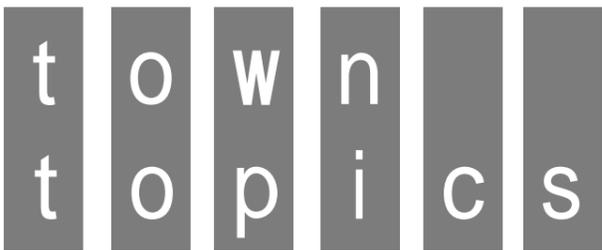
ありました。

また、『さくら館』の愛称を応募した藤瀬均さんからは「津別町民の皆様には太陽のように暖かく、前向きに、日本一輝くふるさとを築けるよう、陰ながら応援いたします」とメッセージが寄せられました。出席者を代表して16名のテープカットが行われた後、山下邦昭JAつべつ代表理事組合長によるオーガニック牛乳での乾杯、津別奈々サークルによる大正琴の記念演奏会で施設の完成を祝いました。

セレモニー終盤には、津別産の食材を使った軽食試食会、施設の概要説明、古賀彰里クラビス・アーキテクト㈱代表取締役より情報発信システムの説明なども行われました。なお、このセレモニーはインターネットによるライブ中継が行われ、全世界に配信されました。



津別奈々サークルによる大正琴の記念演奏会



まちのわだい



火の用心を呼びかける青葉幼稚園児

町から火災をなくしましょう
防火パレードが行われました

春の火災予防運動にあわせて、4月16日に防火パレードが行われました。消防署前で行われた出発式では、佐藤多一町長が「山火事を始め、火災が起きないように皆さんのご協力をお願いします」と話し、本岐駐在所の高橋雄一さんが「例年この時期になると、火災の発生が多くなってきます。防火パレードを通じて町民の皆さんに広く、火災予防の意識が高揚することを期待します」とあいさつしました。

パレードでは、約100名が1時間程度町内を練り歩き、火災予防について呼びかけを行いました。



落成式で、新鞍忠信理事長は「この家を拠点に事業を取り組みますので、皆様には変わらぬ、ご支援とご指導をお願いいたします」とあいさつ。佐藤多一町長は「町としても育成会の運営に手助けしたいと思います」と祝辞を述べ、万歳三唱で完成を祝いました。

手をつなぐ育成会の家が完成
落成式が行われる

一条通にある津別町手をつなぐ育成会の家の改修工事が完了し、4月17日に落成式及び祝賀会が行われました。

手をつなぐ育成会は、心身障がい児(者)への理解を深め、その育成と福祉の向上を図ることを目的に、昭和52年に結成されました。昨年の11月にはNPO法人格を取得し、障がい児を預かる「日中一時支援事業」や手作りパンの製造販売などを行っています。

落成式で、新鞍忠信理事長は「この家を拠点に事業を取り組みますので、皆様には変わらぬ、ご支援とご指導をお願いいたします」とあいさつ。佐藤多一町長は「町としても育成会の運営に手助けしたいと思います」と祝辞を述べ、万歳三唱で完成を祝いました。

3月19日、ランブの宿森つべつで「癒しの空間・春を待つコンサート」(津別町地域再生プロジェクト推進協議会主催)が開催。コンサートは、東日本大震災の影響で中止も検討されましたが、「日本を元気にしたい」という主催者側の想いから開催に至りました。

第1部は、RECコベつが「千の風になつて」を含む3曲を演奏。その後、全日本リコーダーアンサンブル部門で最優秀賞を受賞した金子健治さんとクラシックギター奏者の大柴拓さんが「灰色の鐘」や「コンドルは飛んで行く」などの曲を伴奏し、会場を訪れた約50名の観客を魅了しました。



癒しの空間・春を待つコンサート
美しい音色で観衆を魅了



「子ども手帳」が寄贈されました
安心・安全な子どもたちの未来を

地域の安心・安全への取り組みとして、日本公衆電話会(前川二郎支部長)が4月7日に町長室を訪れ、交通ルールが記載された「子ども手帳」を寄贈しました。

子ども手帳は、町内の小学4年生以上に配布され、交通事故を起こさないためには何に気を付けたらよいかを子どもたちが自ら考えるような仕組みになっています。

また、最後のページには安全に通学できる地図を自分で作成する安全マップが掲載されています。

寄贈を受け、佐藤多一町長は「交通安全について、自ら考えていただけるよう有効に活用させていただきます」とお礼を述べました。

4月7日、町民会館で津別町交通安全推進町民大会が開催され、町内外から約200名の参加がありました。

大会では、交通安全に関する標語コンクールで優秀な作品を応募した後藤肇くん、柳瀬由花子さんから10名の表彰が行われ、佐藤多一町長より賞状と記念品が贈呈されました。また、町内における死亡交通事故ゼロ日運動は、本年1月14日に「3000日」を達成し、目標を新たに「5000日」と定め運動に取り組むことを確認。その後、安心して暮らせる地域づくりに取り組む決意表明が行われ、交通安全の誓いを新たにしました。



交通事故死をゼロに
交通安全推進町民大会が開催



子ども達の安全を守る
防犯協会が防犯ブザーを寄贈

4月4日、津別町防犯協会(佐々木利明会長)が教育委員会を訪れ、津別小学校、活汲小学校、本岐小学校の新入学児童38人分の防犯ブザーを寄贈しました。この取り組みは平成13年度から続いており、今年で11年連続になります。

手のひらサイズの防犯ブザー「ミオマモルちゃん」は、ストラップを引くと大音量のアラーム音で危険を知らせます。佐々木会長は「防犯ブザーで地域の安全に貢献したいです」と話し、寄贈を受けた阿部博道教育長は「子ども達の安全のために有効に活用させていただきます」とお礼を述べました。